



新東名高速道路建設に伴う発掘成果

# にしとみおか むこうぼた 西富岡・向畑遺跡

主催 (公財)かながわ考古学財団

共催 伊勢原市教育委員会

## 古代の住居跡と中世の路(みち)の発掘

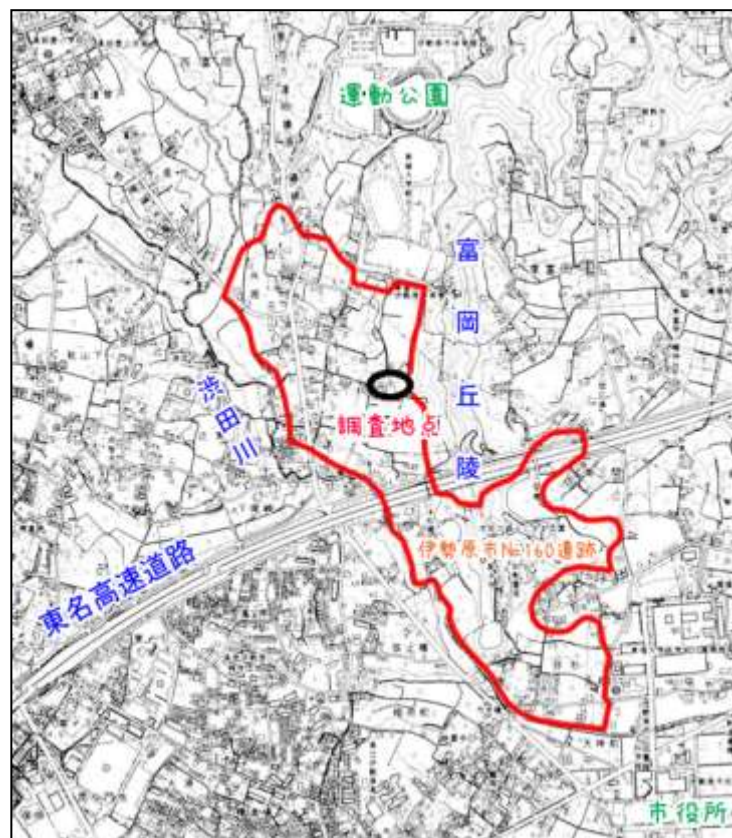
にしとみおか むこうぼた  
西富岡・向畑遺跡の発掘調査

伊勢原市西富岡に所在する西富岡・向畑遺跡は、中日本高速道路株式会社が計画する新東名高速道路建設に伴う事前調査として、2007年4月から発掘調査を実施しています。

西富岡・向畑遺跡では、これまでの調査によって、中世の建物跡、古墳時代末から平安時代にかけての集落跡、縄文時代中期から後期にかけての台地上の集落跡、谷部からはクルミやトチの実などの堅果類が多数出土した水場遺構などが発見されており、たくさんの遺物が出土しています。今回は、古代と中世の遺構・遺物を中心にこれまでの発掘調査の成果の一部を紹介します。



15区C1号路 全景



遺跡の位置

### これまでの主な発見遺構数

#### ——発見遺構——

**中・近世:** 竪穴建物 21 軒、掘立柱建物 3 棟、地下式坑 9 基、地下室 2 基、井戸 7 基、炭焼窯 1 基、土坑 350 基、溝 68 条、集石 7 基、路 1 状、柵列 3 列、など

**古代(奈良・平安時代):** 竪穴住居 226 軒、竪穴状遺構 16 軒、掘立柱建物 65 棟、土坑 465 基、溝 23 条、道 11 条、杭列 4 条、など

**縄文時代:** 竪穴住居 76 軒、掘立柱建物 1 棟、配石 20 基、集石 72 基、埋甕 45 基、焼土址 8 基、带状粘土列、水場遺構(土坑 24 基、木組み 2 基、埋設土器 1 基、杭列 5 条など) など

**旧石器時代:** 礫群 16 箇所

左の写真は、15区中世の礫石を敷いた C1 号路(みち)の全景写真です。全長約 54m、幅約 1m を測ります。上が西にあたります。地形は、西から東にかけて緩やかに上がっており、滑り止めの目的で礫を敷いたと見られます。幅約 20cm、間隔約 15cm 単位で礫を敷いています。



フランス式色彩地図

上の地図は、正式には「第一軍管地方 2 万分の 1 迅速原図」とよばれるもので、陸軍参謀本部が明治 13 年から 19 年(1880~86)の期間に関東平野のほぼ全域と三浦半島を測量し作成された地図です。赤丸が西富岡・向畑遺跡の範囲です。点線が今回見つかった 15 区 C1 路(みち)に相当すると考えられます。



11区H19号掘立柱建物 検出状況

左の写真は、布掘り(柱と柱を溝で繋ぐ)の掘立柱建物で、他に 3 軒ほど検出しています。まだすべて掘りきってはいませんが、H19 号掘立柱建物の溝は、1 周巡るようです。1 周巡る掘立柱建物は、本遺跡では初めて検出されました。溝の中からは、柱穴が見つかり、南北 3 間×東西 3 間の規模で、南北がやや長い形状を呈しています。



新東名高速道路建設に伴う発掘成果

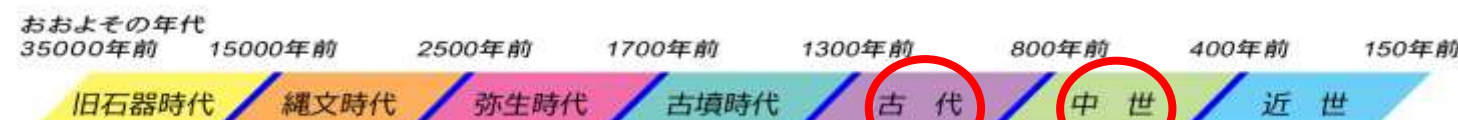
西富岡・向畑遺跡(伊勢原市No.160遺跡)

2014年8月30日

公益財団法人かながわ考古学財団

〒232-0033 横浜市内南区中村町 3-191-1

TEL 045-252-8689 <http://kaf.or.jp/>



赤丸は、今回の調査で発見された遺構・遺物のおおよその時期を示しています。

# 西富岡・向畑遺跡 11区・15区周辺の古代遺構配置図

141 140 139 138 137 136 135 134 133 132 131 130 129 128



11区西の全景写真（東から）



H7号竪穴住居から出土した土師器の高坏



H13号竪穴住居



H1号掘立柱建物（3×3間）



H55号竪穴住居から出土した管状土唾（網のおもり）



宅地造成で切り取られた竪穴住居の断面



H14号竪穴住居から出土した仕上げ砥石



土師器甕を土管状につなげたカマド煙道



11区から出土した緑釉陶器



11区周辺の空中写真